倫理哲学 Ethical Philosophy

新

素養科目　1、2、3 年／前期または後期　1 単位　選択科目

科目責任者　**川北　晃司（倫理学研究室）**

▌教育目的

倫理と哲学に関わるいくつかの歴史的な思想・理論・課題について深く知るとともに、現代における環境倫理、生命倫理、科学技術倫理、企業倫理、青年の課題など、広範囲の応用哲学・倫理的なテーマを考察する。【卒業認定・学位授与の方針:YD-①、YD-④、YD-⑤、SD-④、SD-⑤】

▌学習到達目標

1. 倫理・哲学的な思想（家）・理論 ・ 課題について列挙できる（知識）
2. 倫理・哲学的な思考態度・習慣について評価、意図できる（知識、態度）
3. 自分のライフサイクルのあり方について見つめ直す（態度）

▌準備学習（予習・復習）

予習：哲学の参考書や高校時代の倫理の教科書があれば見直しておく。
復習：ノートおよび配布プリントを読み返し、疑問点はないか確認する (30 分以上)。

▌授業内容

座学の中で活字教材および映像資料を適宜配布、上映し、「若さ」、「自立」、「個性」、「文明」、「生きがい」、「正義」、「サイエンス」、「人間」とは何か等につき考察する。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	導入 人類の宿命的課題とは	S. フロイト (1856-1939) の言う「人類の宿命的課題」	A(1)-①-1～7
2	倫理・道徳・哲学とは	フィロソフィアの意味、河合隼雄 (1928-2007) の「大人になることのむずかしさ」	A(1)-①-1～7
3	隣人愛、啓蒙の意味	I. カント (1724-1804) の哲学・人間・文明観	A(1)-①-1～7
4	青年期の発達課題とは	心理的防衛機制	A(1)-①-1～7
5	幸福、個性、使命、生きがい、ユーモア	与謝野晶子 (1878-1942) の幸福論 神谷美恵子 (1914-1979) の生きがい論	A(1)-①-1～7
6	社会を変えるものとは	公害 G メン、田尻宗昭 (1928-1990) の使命感	A(1)-①-1～7
7	人類と自然のあるべき関係とは	現代における環境倫理の草分け、R. カーソン (1907-1964) の問題意識	A(1)-①-1～7
8	文明とは 世代間倫理とは	明治期日本の環境運動 環境倫理の三本柱	A(1)-①-1～7
9	環境倫理の新展開	A. ネス (1912-2009) の「ディープ・エコロジー」とその問題点	A(1)-①-1～7
10	正義とは	アリストテレス (BC384-BC322) の功績主義、J. ベンサム (1748-1832) の功利主義、J. ロールズ (1921-2002) の「無知のベール」論	A(1)-①-1～7
11・12	イギリス経験論	F. ベーコン (1561-1626) の実験・実用主義	A(1)-①-5～7
13・14	フランス・モラリスト	M. モンテーニュ (1533-1592）の懐疑主義　、B. パスカル (1623-1662) の「繊細の精神」	A(1)-①-5～7
15	総括		

▌授業分担者

川北　晃司（No.1～15)

▌課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

課題のフィードバック：質問を個別に受け付け、解説・説明する。提出された学生レポートを次の授業時冒頭でコメントをつけて紹介する場合もある。
成績評価方法：期末試験（70 %）および受講状況・授業中のレポート（30 %）

▌教科書

指定なし

▌参考書

ジュリアン・バッジーニ『倫理学の道具箱』(共立出版）2012 など